

第5回勝山市総合行政審議会（第16期）議事録

日時：令和3年12月21日（火）19：00～

場所：勝山市役所3階第1会議室

【第5回審議会】

1 開会

2 諮問

3 市長あいさつ

4 議事

《事務局による資料説明》

第6次勝山市総合計画案について、事務局より説明。

《意見交換》

松田委員

これまでの10年間（第5次）と今後の10年間（第6次）の差分は何か。どこが駄目で、どう直したかを教えていただきたい。

○未来創造課 辻

これまでもやってきたものの、中々進まなかったところをやっていこうというのが、今回の「2つの創る」と「地域の未来を創る」の部分にあたる。

前回の10年間では、人口減少、地域の活動が衰退していくことは予想できていたが、うまくいかず積み残しとなってしまった。

そのため、今後、地域の力を一つに集約しようと考えている。今まで公民館は生涯学習施設であったため、社会教育以外に使っていいのかがグレーゾーンだった。

今回の第6次総合計画では、まちづくりの拠点として位置付け、梃子入れを行う。

もうひとつは集落について。集落がなくなってしまうと伝統文化が消滅してしまう。それを避けるにはどうしたらいいか、集落の在り方を見直していく。

飯田委員

基本的な考え方の「10年後の人口構成を踏まえた対応」について、高齢者の活躍促進と子育て教育への集中投資を言いたいのであれば、それをタイトルに書いたほうがよいのではないかと思う。10年後の人口構成を踏まえた対応というのは、基本的な考え方のどれにも共通していることかと思う。

「2つの創る」が抽象的すぎて分かりにくい。わいわいわくわくを意識しているのかと思うが、もう少し具体的に書いたほうがよい。

「2つの創る」と「4つの守る」の関係性が、図で分かるとよい。よくあるSDGsの図などを参考にして、政策の関連性を示すとよいのではないか。

○未来創造課 辻

ご指摘のとおり、基本的な考え方は全て、人口構成を踏まえた対応なので、タイトルを変更したいと思う。

ご指摘のとおり「2つの創る」はわいわいわくわくを意識している。ご指摘の内容について検討させていただく。

わかりやすいようにポンチ絵等を入れていきたいと思う。

松田委員

次回以降は、この素案について議論をするのか。

○未来創造課 辻

次回以降は、ブレインストーミングに近い形で進行を予定している。素案についての議論も含め、どういった事業がしていきたいかなどといった、たたき台を用意するので、もっとこうしたほうがよいなどの意見をいただければと思う。

織田委員

総合計画と個別計画の関連性のプロセスを、市民の方にもわかりやすいようにしていただきたい。どのように計画が生きているか、絵を入れたりなどして市民の方もわかるようにするとよいと思う。

○未来創造課 辻

ご指摘のとおり、市民の方にいかに知ってもらうかが大切だと考えている。そこで、小中学生向けの子ども版総合計画作成を検討している。できるだけわかりやすく解説し、それらを市民向けにも周知したいと考えている。

松田委員

次回以降が細かい項目の洗い出しということであれば、今回のうちに「わいわいわくわく～」の主題は変えたい。

市民の方がなにかしたいという時に「わいわいわくわくしたことをしよう」といっても、具体的なことが思い浮かばないかなと思う。

○未来創造課 辻

ご指摘の点については、企業でいう企業理念にあたる部分だと思っている。市役所内で意見を出し合って決めたので、市民の意見が不足している点もあるかと思う。

意見があればこの場に限らず出してほしい。

中村委員

機会がある度に言っているが、私はインバウンドを主なターゲットとしたと思っている。平泉寺白山神社にはすごい魅力がある。

地元の人にはその自覚がないが、海外の人には魅力的に見えている。勝山には、良いところがたくさんある。特に、東南アジアの人にとって日本はすごく魅力的にうつる。

大野市と協力しながらインバウンドのターゲットを集めてくる、そういった政策をすれば、10年後にはわいわいわくわくしたまちになっていると私は思う。

そのためには英語の学習が必須。勝山市民の英語力が足りないのは、国際化が遅れているから。英語の教育とDX、これに勝山市が力を入れれば、日本を代表する都市に変わる。勝山市にはそれをできる魅力があるのに、地元には自覚がない。

なぜこれほどのブランドを持っているのに、これを活用しないのか、残念で仕方がない。勝山は大きく化けていくと思う。

中村委員

そして、そういった情報は例えばALTの先生に発信してもらおう。SNS等の口コミの影響力はすごい。今勝山に来ている外国人や若い人の意見を取り入れ、どんどん活用していけば、お金もそんなにかからないと思う。

松田委員

「創る」の部分が第5次から大きく変わったというのであれば「創る」をメインタイトルにしてしまうべきだと思う。「じゃあ今日にでもやろう」と思

えるようなメインタイトルにするべき。今すぐにでも動けるような、みんなが一步踏み出せるような、そんなタイトルにするべきだと思う。

実際、この審議会がきっかけで、織田委員と大石橋委員と僕とで、雪温度計を作ろうと集まってやっている。

織田委員

インバウンドだけではなく、他の県からの移住者を増やすことが今のまちづくりには必要だと思う。今の就活生が何を意識しているのかなど研究が必要。

具体的な内容があれば、勝山に来てもらえると思う。計画を見た人が、自分達に何ができるのかを考えられるところまで、落とし込めるとよい。

松田委員

今の子供たちが、10年後に何をしたいのかを調査したデータなどはあるか。

○未来創造課 辻

今年度、中学生アンケートを実施した。将来就きたい職業についての設問では、1位が「スポーツ・eスポーツ選手」2位が「医療・介護関係」3位が「まだわからない」という結果だった。

塚本会長

中村委員からご指摘のあったとおり、他所から来た人間（自分）からしたら、勝山は関西に比べてはるかに子育てがしやすいと感じる。

でもずっといると分からなくなってしまうということもあるのかなと思う。外部の意見もきちんと取り入れていく必要がある。

富田委員

言い方はあれだが、どれだけいっても行政の考えることは行政の考えることということもあると思う。みんなのための総合計画なら広く公表して、市民の方から意見をもらうのも大切ではないか。

小泉綾委員

会社でもキャッチフレーズを考えているが、とても大変だと感じている。今後10年間のことであり大切なことなので、外部委託等検討してでも、慎重に考えていく必要があると思う。

○未来創造課 辻

ご指摘のとおり頭が固い部分もありますので、広く意見を聞いて、適宜修正してきたいと思う。

5 閉会